

2024年度 大学入学共通テスト 数学ⅡB(本試験) 分析

試験時間60分

難易度	出題分量	出題傾向
やや難化 会話文は減り、旧センター試験に近い出題であった一方、論理の流れを問う問題等、数学が苦手な生徒にとっては厳しい試験であった。	変化なし 出題分量としては昨年度と比べて大差はないが、微積分などで計算問題が少なく、全体的には減少した印象を受ける。	変化なし 『三角関数』の出題が無く、『整式の除法』が初めて出題された。また、当てはまる文章を選択させる問題が多かった。
総評 計算量が減った代わりに、論理的思考力が必要な問題が多かった。また、似たような選択肢から選ばせる問題が多く、かつ内容も抽象的なものが多かったため、難しく感じた生徒も多数存在したであろう。		

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	設問別分析
第1問	[1]指・対数関数 [2]式と証明	30点	[1]底とグラフの関係がわかれば容易に解けた。 [2]割り算の原理が分かっているならば、計算も容易。
第2問	微分法・積分法	30点	抽象的な問題で、数学が苦手な生徒は難しく感じたであろう。対称性や微分と積分の関係などについての知識が必要であった。
第3問	確率分布	20点	昨年同様に母標準偏差の代わりに、標本の標準偏差を用いて信頼区間を求める問題。苦手な生徒は解きづらかったと推測される。
第4問	数列	20点	前半は漸化式を解く問題だが、後半は数学的帰納法での証明の仕方を問う問題。流れをいかに理解しているかが解答する際のポイントであった。
第5問	ベクトル	20点	空間ベクトルの出題で、直線上の点を表現して、2点間の最小値を問う問題。2変数をしっかり処理すれば問題無く解けたのでは。

高1・2生へのワンポイントアドバイス

論理的思考力をテーマにおいていることが顕著にうかがえる試験であった。微分と積分の関係性や割り算の原理をしっかりと理解しているか等、考え方を問う問題が多数出題された。共通テストにおいて、全体的に公式暗記ではなく内容理解を求められてきていると認識してほしい。

これから共通テスト対策に取り組む際には、教科書を中心にしっかりと読解して、原理原則を理解し、問題集等の徹底的な演習を行うことにより、演習量を増やしていくことが必要である。